

市長ひとくごと

20

齊藤 讓

東総サミット

東総地域三市五町の首長、議長が参加して、地域の協調と発展策を協議する会議を東総サミットと称している。

いま千葉県は、五百三十万県民に象徴される如く、全国でもめざましく発展している先進県の一つであり、人口規模では全国七位で間もなく北海道を抜いて六位になろうとしている。しかし、県内の人口の張りつき状況は、京葉地域を中心とした、県土三割の地域に七割の人口が集中し、残る七割の県土に三割の人口が点在するといった不均衡を生じており、いきおいこれが経済の発展、停滞地域の色わけともなっているのである。沼田県政は、これらの状況は是正し、県土の均衡ある発展を図る観点から、ひずみなき

県政を旗印とし、いわゆるA、B、C三角構想に基づく政策を強力に推進している。Aとはエアポートで、成田空港を核とし、臨空港

工業地域、物流基地としての発展を図るものであり、Bはブリッヂで、東京湾横断道路の建設による上総地域を中心し最先端技術の研究学園都市の建設をめ



ざしている。Cはコンベンションで千葉市の埋立地幕張に、国際会議場や見本市会場をつくり、国際交流の拠点としようとするものである。すでにこれら三大政策は、構想の段階から、実現の方向へと大き

く着実に動き出しているのである。これらが総て完成し、周辺地域へ波及効果を及ぼすまでには五年から十年の歳月はかかると思うが、いずれにしろ、二十一世紀の千葉県の発展に大きな役割を果すことには間違いないことである。

ところで、私達の住む東総地域は、成田空港に隣接しているわけであるから、昭和六十五年度の完全空港化にどこの市や町も大きな期待を寄せているところである。それにしても、東総地域が空港との共存関係を強化するには、立ち遅れている

空港と地域をつなぐ幹線道路網の整備を急がなければ、十分なる効果は望めない。実は、先月の十一日に東総サミットを開催し、沼田知事をはじめ地域選出の県議会議員をお招きして地域の実情視

察をしていただき、その際各市町長からそれぞれの市町の抱える問題に対し県の支援を要請した。当日はあいにくの雨で、バスから降りて視察できたのは、管内で旭市と光町の二カ所だけで、他市町はい

ずれも車中視察となった。銚子市長は、移転した漁港周辺に水産ポートタワーの建設と名洗港のマリーナ基地建設を訴え、旭市長は、旧香取飛行場滑走路周辺の農用地四十数ヘクタールの工業団地化と都市街路の整備を、そして八日市場市長は、駅前公園の建設計画を訴えた。他の町も主として幹線道路の整備をそれぞれ陳情した。いずれの市や町も、活力あるまちづくりに躍起とな

っているのである。光町は最後の視察コースに当っており、道中雨が降り出して車中もむし暑く、疲れもでたのか車内視察で済まそうという気配であった。しかし、私は折角の機会であり、特に篠本開発に関連した県道バイパスの建設促進を強く訴

える為にも是非とも現地に立って知事に直訴したいと思っていた。説明予定地の二又交差点に近づく頃は結構雨足も強かったが、テントを二張りし、周囲をきれいに清掃して職員が待っていたのである。それまでの視察地ではこんなことはなかったもので、みんなこれでは仕方ないといった様子でバスから降りたのであるが、降りたとたんに冷えたオシボリが配られると、知事をはじめ誰もが一瞬オーツといった顔になり、雰囲気は一変したのである。私は、職員の心憎

いばかりの気配りに感謝しながら、雨にけむる篠本台地をにらんで思いきり熱っぽく訴え、知事の確かな反応を確認した。私には、大事を為すには小事を疎かにしてはならないと、肝に銘じたサミットでもあった。

